

GSX-R1000/R R-11Sq ステンレスレーシングサイクロン 取扱説明書



このマフラーはクローズドコース走行専用部品となっております。
一般公道での使用は絶対に行わないで下さい。

○作業に入る前に必ず取扱説明書を熟読して下さい。

○作業中は本書を手元に置き、指示に従って作業を進めて下さい。

○本書は製品を廃棄するまで確実に保管して下さい。



△危険 慎重と怪我につながる注意事項を示してあります。



△注意 慎重と部品の損傷等につながる注意事項を示してあります。

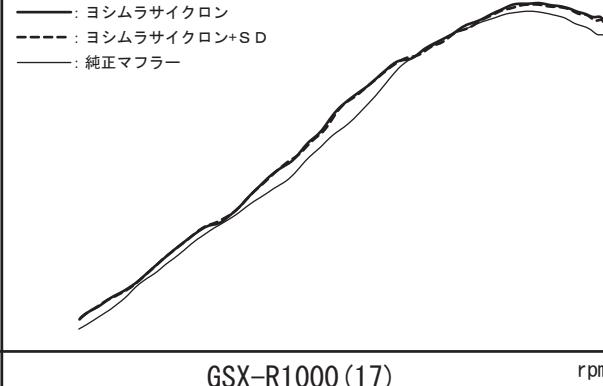


参考 スムーズに作業を進める上でのポイントや参考となる事項を示してあります。

1. 適応車種及び諸元表

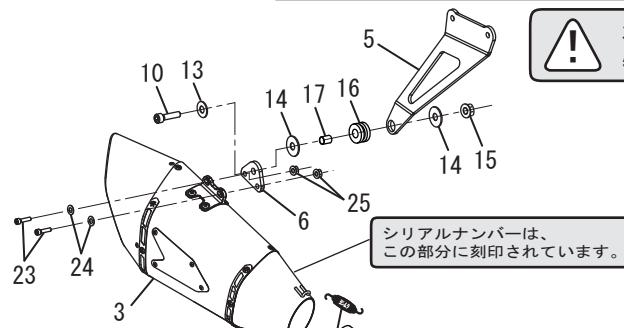
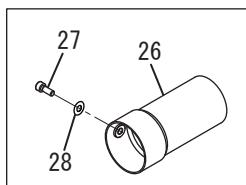
車名	SUZUKI GSX-R1000/R '17-'22	
サイクロン型式	S50AS1QC1	
素材	ステンレス / チタン / カーボン	
品番	ステンレスサイレンサー	: 150-50A-C15G2
	メタルマジックサイレンサー	: 150-50A-C12G2
	チタンサイレンサー	: 150-50A-C18G2
	チタンブルーサイレンサー	: 150-50A-C16G2
音量	サウンドディフューザー無し	109dB / 6,000rpm
	サウンドディフューザー有り	105dB / 6,000rpm
重量	純正マフラー	: 10.8kg
	ステンレスサイレンサー	: 7.0kg
	メタルマジックサイレンサー	: 7.0kg
	チタンサイレンサー	: 6.8kg
	チタンブルーサイレンサー	: 6.8kg

性能曲線



2. セット内容

触媒	オイル交換	オイルフィルター交換	センタースタンド	ガスケット	カウル加工	サイレンサーリメイク
無	可能	可能※手順22参照	無	純正品	無※手順21参照	可能



3. 取付方法

△注意 ※作業時は部品を損傷しないよう注意して作業を行なって下さい。
※ボルト、ナット締め付けの際は必ず規定トルクを守って下さい。ボルト、ナットの脱落・製品の破損の原因になります。
※純正部品の取り外し、取り付けは、メーカー発行のサービスマニュアルを参照して下さい。
※外した純正部品は、大切に保管して下さい。

1. セット内容を確認して下さい。
2. メーカー発行のサービスマニュアルを参考し、フレーム・スイングアームを損傷しないように注意しながら純正サイレンサーを取り外して下さい。
3. サービスマニュアルを参考し、ラジエーターを止めているボルトを外してラジエーターをずらしてから純正ヘッダーを取り外して下さい。
4. ECUをヨシムラ製レーシングECUセットに付け替えて下さい。
純正ECUを使用する場合は、オプションの排気バタフライキャンセルステーを取り付けて下さい。
取り付けの詳細は、排気バタフライキャンセルステーの取扱説明書を参考して下さい。

参考 過度なトラクションコントロールの設定は、マフラー他の部品に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意下さい。
ECU交換手順や、ECU交換に関連して別途必要となる部品についての詳細はレーシングECUセットの取扱説明書をご参照下さい。

△注意 純正ECUを使用する場合、排気バルブワイヤーが外されたままイグニッションONにすると、エキゾーストバルブアクチュエーター(EXCVA)が空回りして破損する恐れがあります。
排気バタフライキャンセルステーの取り付けを終えるまでは、絶対にイグニッションONにしないで下さい。

5. 左右のタンデムステップを取り外し、⑤サイレンサーステー#1に⑯グロメットラバー、⑰グロメットカラーを取り付けてから純正ボルトを使用して車体に規定トルクで締め付けて下さい。 (FIG. 1参照)

△注意 規定トルク サイレンサーステー#1 : 23 Nm

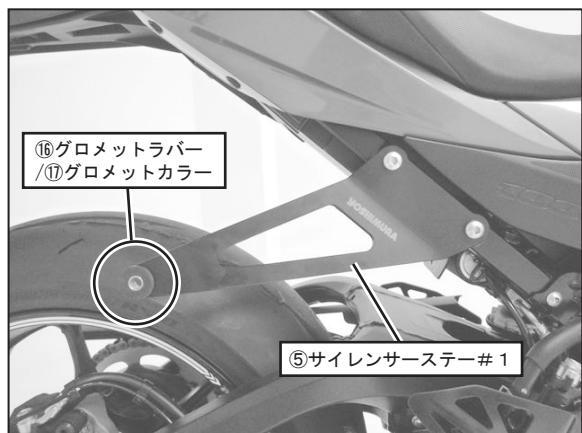


FIG. 1

6. 純正エキゾーストガスケットを新品に交換し、⑦口金ジョイントに⑧口金フランジをはめ込み、⑨キャップボルト(穴開き)M8×25、⑪キャップボルト用サラバネM8を使用して排気ポート部に仮締めして下さい。
(FIG. 2参照)

△注意 エキゾーストガスケットは必ずメーカー純正品を使用して下さい。

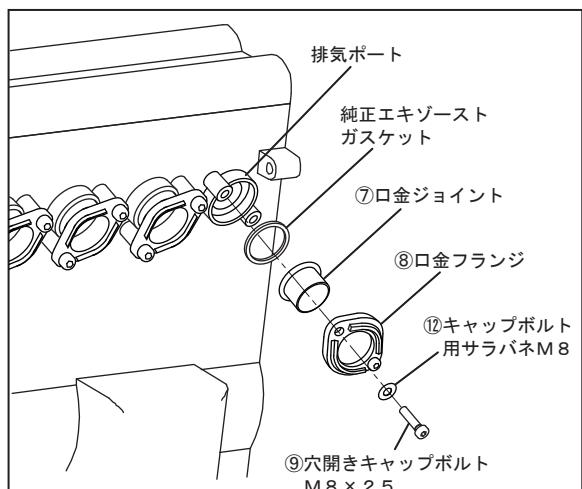


FIG. 2

7. ①ヘッダーASSYを手順6で取り付けた⑦口金ジョイントに奥までしっかりと差し込み、排気漏れがないように、フランジ部のボルトを規定トルクで均等に締め付けます。次に、⑨穴あきキャップボルトM8×25と①ヘッダーASSYに⑩マフラーープリング(フローティング)を取り付けて下さい。(FIG. 3, 4参照)

参考 ヘッダーASSYを差し込んだ後、プラスチックハンマー等でヘッダーASSYの下部を軽く叩き、オイルパンとの隙間を均等にして下さい。

△注意 規定トルク ヘッダーASSY : 15 Nm

△注意 ヘッダーASSYを取り付ける際は、ラジエーターコアを破損しないよう充分注意して作業を行って下さい。

△危険 スプリングを取り付ける際は、スプリングが工具から外れないよう充分注意して下さい。

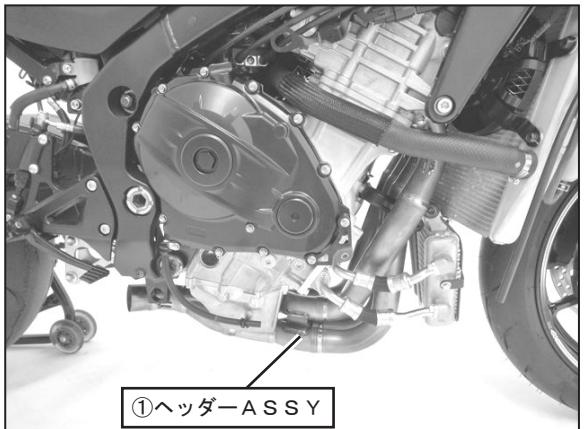


FIG. 3

8. ①ヘッダーASSYのセンサーpusに②プラグ、又は社外品A/Fセンサー(M18)を取り付けます。

(A)センサーを使用しない場合

センサーpusに②銅ワッシャ、②プラグを取り付けて下さい。

(B)社外品A/Fセンサー(M18)を使用する場合

センサーpusにA/Fセンサーを取り付けて下さい。
(FIG. 5, 6参照)

△注意 規定トルク プラグ : 45 Nm

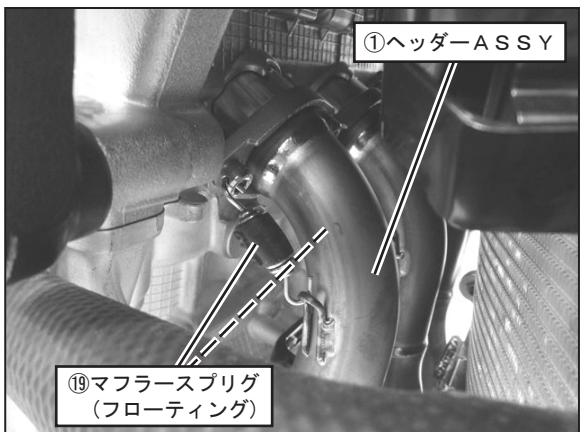


FIG. 4

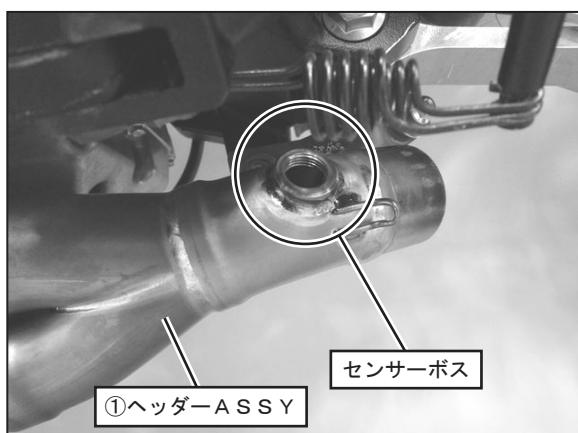


FIG. 5

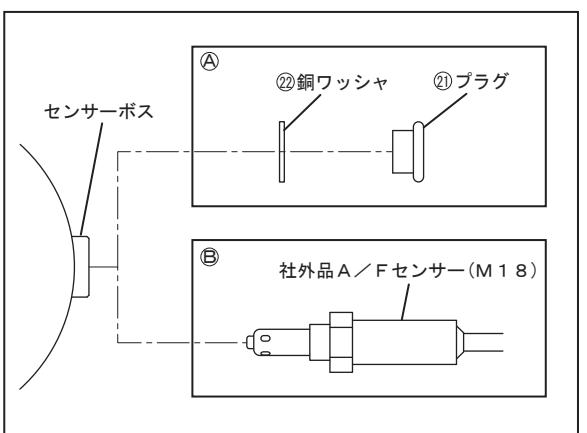


FIG. 6

9. 車両下側のマフラーブラケットからツバ付カラー、グローメットラバーを取り外して下さい。
(FIG. 7参照)

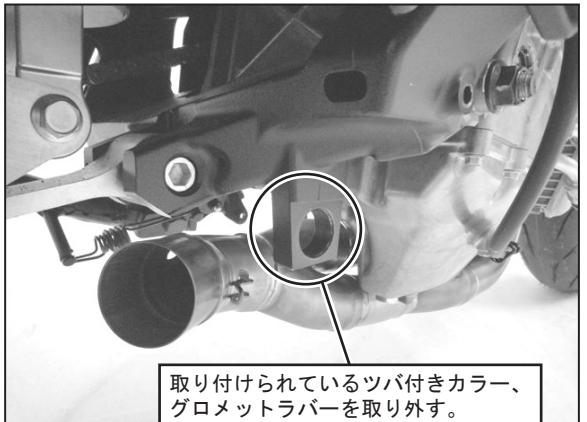


FIG. 7

10. ④テール別体ステーに⑯グロメットラバー、⑰グロメットカラーを取り付けてから⑪キャップボルトM8×35、⑭平ワッシャM8×26、⑮段付きカラー8-30-18、⑯フランジナットM8を使用して、車両下側のマフラーブラケットに規定トルクで締め付けて下さい。
(FIG. 8, 9 参照)

△注意 規定トルク テール別体ステー : 23 Nm

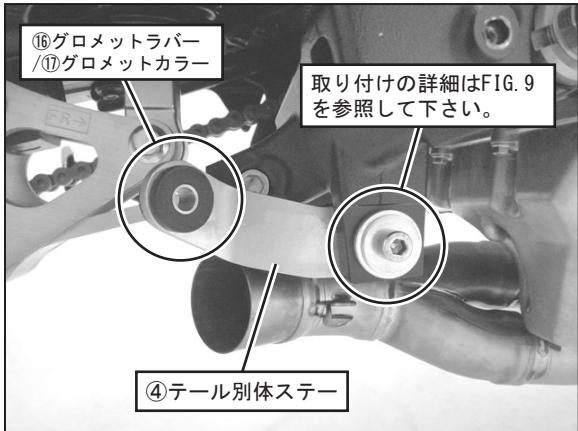


FIG. 8

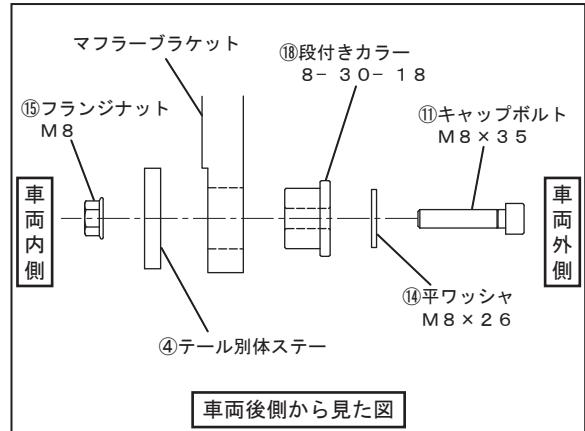


FIG. 9

11. ①ヘッダーASSYに②テールパイプを取り付けてから②テールパイプのステーを⑩キャップボルトM8×30、⑭平ワッシャM8×26、⑮フランジナットM8を使用して、④テール別体ステーに仮締めして下さい。(FIG. 10, 11 参照)

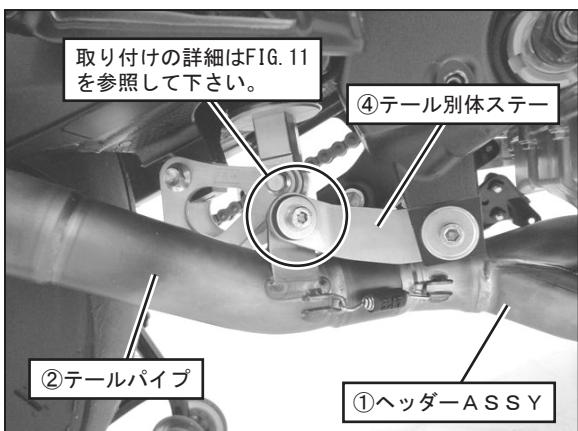


FIG. 10

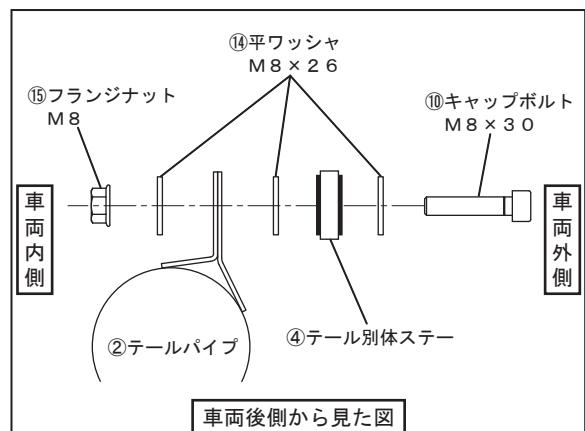


FIG. 11

12. ①ヘッダーASSYと②テールパイプに⑳マフラー スプリング(ミディアムフローティング)を取り付けて下さい。
(FIG. 12 参照)

△危険 スプリングを取り付ける際は、スプリングが工具から外れないように充分注意して下さい。

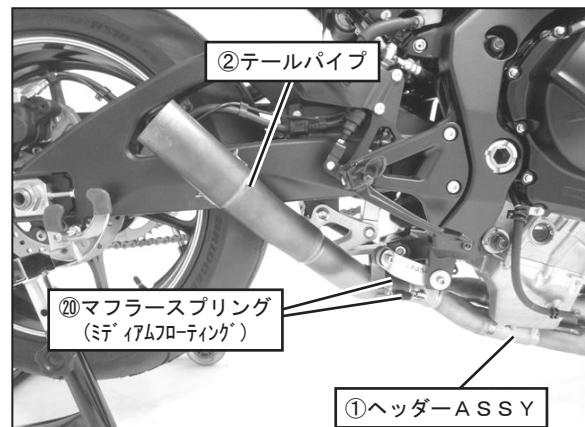


FIG. 12

- 1 3. ⑥サイレンサーステー#2を②ボタンボルトM6×20、
④SUSワッシャM6×13、⑤フランジナットM6を使用して、③サイレンサーに仮締めして下さい。
(FIG. 13参照)

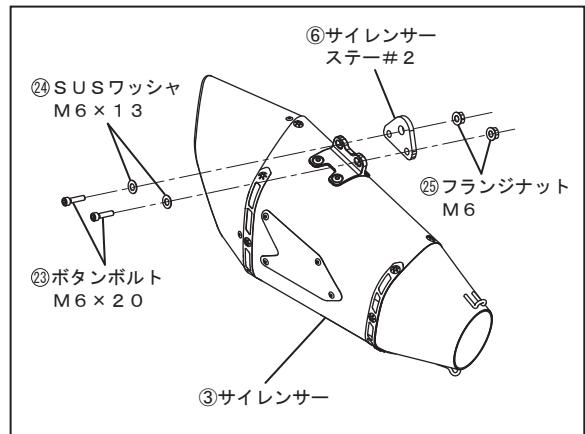


FIG. 13

- 1 4. 必要に応じて、③サイレンサーに⑦キャップボルトM6×8ロック付、⑧キャップボルト用サラバネM6を使用して取り付けて下さい。
(FIG. 14参照)

参考	SD#136無し 音量 109dB / 6,000rpm
	SD#136有り 音量 105dB / 6,000rpm

△注意 規定トルク キャップボルトM6×8ロック付 : 10Nm

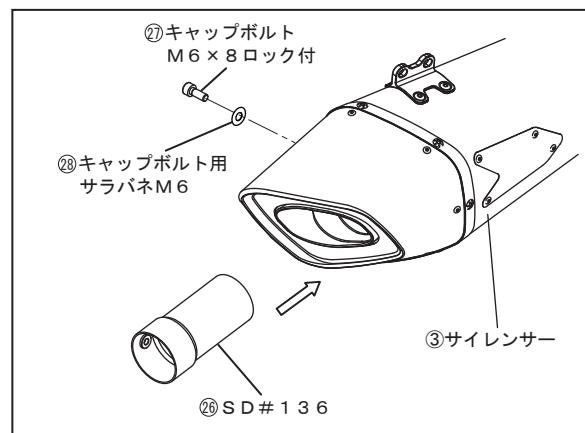


FIG. 14

- 1 5. ③サイレンサーを②テールパイプに取り付け、⑩キャップボルトM8×30、⑬平ワッシャM8×20、⑭平ワッシャM8×26、⑯フランジナットM8を使用して⑥サイレンサーステー#2を⑤サイレンサーステー#1に仮締めして下さい。 (FIG. 15, 16参照)

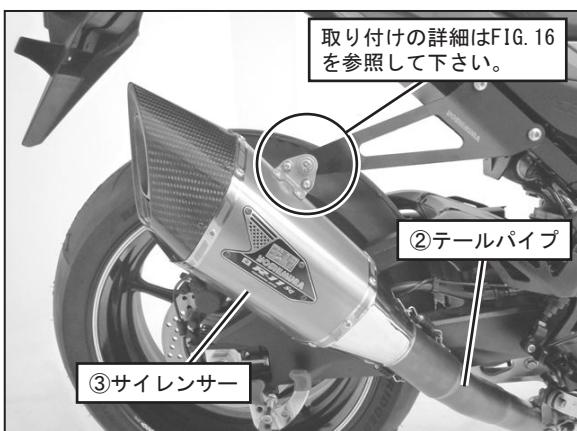


FIG. 15

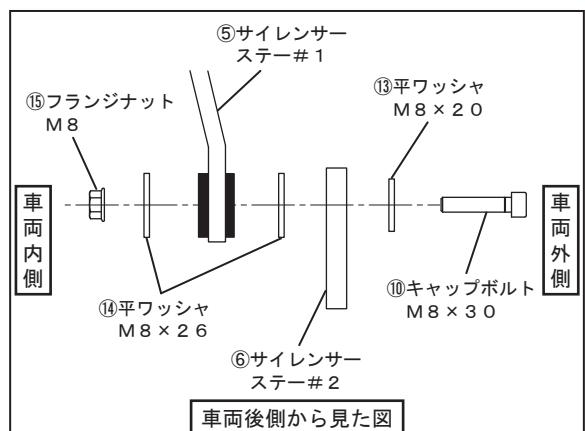


FIG. 16

- 1 6. ③サイレンサーと②テールパイプに⑯マフラー・スプリング(ミディアムフローティング)を取り付けて下さい。
(FIG. 17参照)

△危険 スプリングを取り付ける際は、スプリングが工具から外れないように充分注意して下さい。

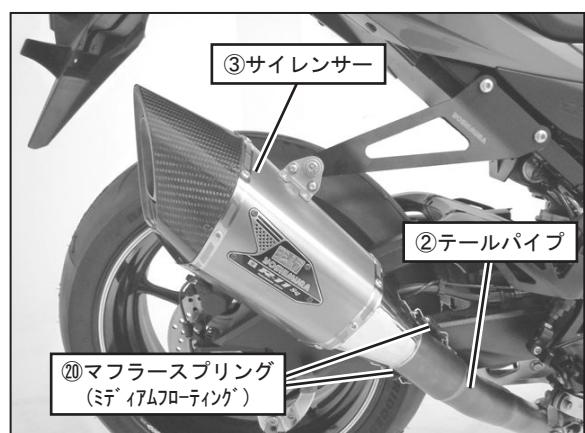


FIG. 17

- 1 7. 車輛後方から見てサイレンサーの角度やマフラーと車輪のクリアランスを調整し、テールパイプステー→サイレンサーステーの順に規定トルクで締め付けて下さい。
(FIG. 18参照)

△注意 規定トルク テールパイプステー : 23 Nm
サイレンサーステー#2 (M6) : 10 Nm
サイレンサーステー#2 (M8) : 23 Nm



FIG. 18

- 1 8. ヘッダーASSYがラジエター・エンジン等と、テールパイプ・サイレンサーがフレーム・スイングアーム等と干渉していない事を確認して下さい。マフラーが干渉している場合は、締め付けたボルトを一度緩めて干渉しないよう再調整して下さい。

- 1 9. 中性洗剤、ウエス等でマフラー全体を良く脱脂して下さい。指紋などが付着したままエンジンを始動すると、色ムラとなって残ってしまうことがあります。

△注意 ※メタルマジックカバーのサイレンサーは、パーツクリーナー等が付着すると塗装が剥がれてしまいます。
中性洗剤以外でのクリーニングは絶対に行わないで下さい。



FIG. 19

- 2 0. 暖気運転を行い、排気漏れがないことを確認し、エンジンが完全に冷えてから各ボルト・ナットの増し締めを行って下さい。

- 2 1. 取り外したカウルを元に戻して下さい。
装着後、カウルとマフラーが干渉していない事を確認して下さい。干渉、又はクリアランスが近い場合はカウルを加工し、5mm以上のクリアランスを確保できるようにして下さい。(FIG. 19参照)



FIG. 20

- 2 2. 走行中アフターファイアーが激しく鳴る場合は、ヘッダーASSY・テールパイプのジョイント部に液体ガスケット等でシーリングを行って下さい。それでもアフターファイアーが激しく鳴る場合は、サービスマニュアルに従いスロットルポジションセンサーが正常な位置にあるか確認し、必要に応じて調整を行って下さい。作業はエンジンが完全に冷えきってから行って下さい。

△注意 スロットルポジションセンサーの調整は、サービスマニュアルに従い行なって下さい。
調整の手順を間違えますと、エンジン不調の原因になります。

参考 オイルフィルターを交換する際は、オイルフィルターとヘッダーASSYとのクリアランスが狭い為、側面からフィルターを掴むオイルフィルターレンチを使用して下さい。(FIG. 20参照)



GSX-R1000/R R-11Sq レーシングサイクロン

ヨシムラ YOSHIMURA®

○ヨシムラレーシングキットマフラーをご使用の皆様へ △純正ECUをご利用になる場合の注意事項

純正ECUをご利用になる場合は、オプションの排気バタフライキャンセルセット及び、02センサー延長ハーネスを別途お買い求め下さい。

対象商品

品番/品名	150-50A-A1*G* GSX-R1000/R R-11Sq チタンレーシングサイクロン
品番/品名	150-50A-C1*G* GSX-R1000/R R-11Sq ステンレスレーシングサイクロン
品番/品名	150-50A-AX*G* GSX-R1000/R R-11SqR チタンレーシングサイクロン
品番/品名	150-50A-CX*G* GSX-R1000/R R-11SqR ステンレスレーシングサイクロン

純正ECUを使用してサーモキット走行をした場合、トラクションコントロールの介入状況により、排気温度が非常に高くなってしまいます。（写真1参照）

その結果マフラー（特にサイレンサー）が破損してしまう恐れがありますので（写真2参照）、必ず以下の条件でトラクションコントロールポジションを設定してご使用下さい（写真3参照）。



写真1

<トラクションコントロールポジション設定>

- ・ギア比、タイヤ径が純正と同じ場合
→トラクションコントロール 1 又は “OFF”
- ・ギア比、タイヤ径のどちらか、あるいは両方が純正と異なる場合
→トラクションコントロール “OFF”



写真2



写真3

!重要

※マフラーが車体と干渉したままエンジン始動や走行を行うと、火災や転倒などの事故の原因になりますので、マフラーが干渉していないことを充分確認して下さい。また、どうしても干渉が避けられない場合や、走行中に干渉しているような場合は、ただちに使用を中止し、(株)ヨシムラジャパン マフラーฮอットラインまでご連絡下さい。

!危険

※エンジンを始動する際は、換気の良い所で行うこと。排気ガスにより、一酸化炭素中毒になる恐れがあります。

※エンジン始動時は排気口に手を出したりしないこと。排気ガス中に含まれるグラスウール等が目や手などに刺さる恐れがあります。

※エンジン停止時に空吹かしをして止めた場合、マフラー内部に未燃焼ガスが溜まり、着火してテールエンドより炎を発する場合があります。テールエンドの先には引火しやすい物が無いことを確認してからエンジンを停止して下さい。発火した炎により引火し、爆発や火災が発生する恐れがあります。

!注意

※取付け、取扱の不注意による返品は、固くお断り致します。

※製品に加工、改造などは絶対行わないで下さい。それらの場合の修理苦情等一切の責任を負いかねます。

※他メーカー製品との適合は行っておりませんので、本製品取付け、使用時に不具合が発生する恐れがありますが、それらの場合の修理苦情等一切の責任を負いかねます。

●レース車検時の注意

※この商品のサイレンサーは、組み立て時の都合上グラスウールを収縮させております。この為、装着後すぐに音量測定を行うと本来の性能を発揮できずに、車検に合格しない可能性があります。

サイレンサー内部に熱が入ることによりグラスウールが拡散し本来の消音性能を発揮するので、数十分間走行をした後音量測定を行ってください。尚、一度グラスウールが拡散すれば後はこの限りではありません。

●ヨシムラサイクロンのメンテナンス

※マフラーが砂や泥で汚れてしまった場合は、マフラーが冷えてから水洗い等で汚れを落として下さい。定期的に増し締めを行ない、マフラー各部の点検(変形、キズ、車体との干渉等)を行って下さい。

※サイレンサー内部のグラスウールは消耗品です。グラスウールが消耗すると音量増加のみでなく、出力の低下にもなります。消耗した場合は、リメイクサービスをご利用いただくことにより、長く安心してご使用いただけます。リメイク内容についてはお問い合わせ下さい。また、転倒などによる損傷の場合には、(株)ヨシムラジャパンにご連絡の上、修理または損傷部品の交換等を行って下さい。

※サイレンサー単体の重量が、新品時（あるいはリメイク直後）よりも50g以上軽くなっている場合には、ウールが飛散して本来の消音性能を発揮できない状態になっている場合があります。定期的にサイレンサー単体の重量を測定し、リメイクすることをお勧めします。価格についてはお問い合わせ下さい。

重さ/日付	新品時	リメイク直後	リメイク直後	リメイク直後	リメイク直後
	g/ . .				

●保証について

※本製品はレース用パーツのため保証対象外商品です。

(株)ヨシムラジャパン 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津6748

マフラーリメイクのご案内

・マフラーリメイクのご案内 ►



- ・マフラーに関する技術的なご質問、ご相談
- ・マフラーの修理や商品に関するご質問、ご注文

お問い合わせのご案内

お問い合わせいただく際は、「商品名」「商品番号」「車種」「車両年式」「車両型式」をご確認の上、ご連絡下さい。

